

北海道太平洋側港湾 BCP の防災訓練について

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

1. 初の北海道太平洋側港湾 BCP の防災訓練実施

平成 29 年 1 月 12 日(木)、北海道太平洋側港湾 BCP(平成 28 年 4 月策定)において初めてとなる、港湾管理者(室蘭港、苫小牧港、函館港、釧路港、十勝港、根室港)、第一管区海上保安部、北海道、北海開発局参加による防災訓練を行いました。

2. 訓練の概要

訓練は、釧路沖を震源として最大震度 6 強、太平洋沿岸東部から中部にかけて大津波警報が発令された場合を想定し、北海道太平洋側港湾 BCP による情報収集・整理・分析から優先啓開港の決定までを訓練範囲として行いました。

また、今回は、北海道太平洋側港湾 BCP の実効性を高めるため、タイムラインを策定し、それを利用しながらロールプレイング方式の訓練を行った後、アンケート調査によって訓練内容の見直しやタイムラインの改善点について参加者から意見をいただきました。

3. タイムライン、漂流物連絡シートの活用

災害対応にあたり、「いつ」、「誰が」、「何を」について整理した「タイムライン」(図-1)を作成しており、それには災害発生後の「時系列」に沿って、「対応すべき行動」と「関係機関の役割」を定めています。また、優先啓開港を決定するにあたり、漂流物の種類・発生エリアを速やかに把握できるよう「漂流物連絡シート」(図-2)を作成しており、それらを今回の訓練で活用しました。

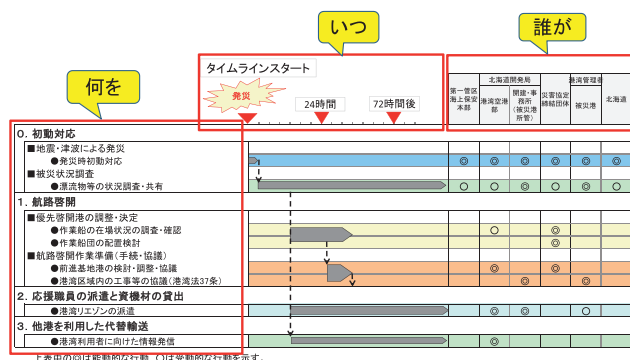


図-1 タイムライン (案)

4. 訓練実施状況

訓練は、コントローラーから災害発生を知らせるメールが各プレイヤーに入ってから始まりました。災害発生メールを受信した後、北海道太平洋側 BCP が自動発動され、被害状況の報告、漂流物連絡シートの作成を行いました。漂流物連絡シートの作成は、初めてにもかかわらず、プレイヤーから迅速かつ、解り易く提出され、有用であることが確認できました。

また、初めてロールプレイング方式で実施する優先啓開港の決定においても、必要となる漂流物状況、港湾施設状況、道路寸断状況、背後圏状況等が報告されており、速やかに対処することが可能でした。

5. 訓練して分かった課題

実際に訓練を実施する事で、初期対応の行動については確実に実施されることがわかりましたが、優先啓開港の決定や応援職員の派遣、資機材の貸出については、タイムラインや BCP 等を充実させる必要があると確認できました。

おわりに

今後は、参加いただいた皆様から貴重な意見を基に関係機関と調整を図りながら北海道太平洋側港湾 BCP、タイムライン、漂流物連絡シート等の見直し進めていきます。最後に、長時間の訓練にもかかわらず、快く協力して下さった訓練参加者の皆さまに深く感謝いたします。



図-2 漂流物連絡シートタイムライン (案)